

2010年6月16日

SAAJ NEWS RELEASE

報告書「企業価値分析における ESG 要因」を公表

(社)日本証券アナリスト協会（会長：稲野 和利 野村アセットマネジメント会長）の企業価値分析における ESG 要因研究会（座長：宮井 博 日興フィナンシャル・インテリジェンス常務取締役）は、報告書「企業価値分析における ESG 要因」を作成し、6月16日（水）に公表しました。

【報告書のポイント】

- ✓ 当協会の検定会員を対象に実施したアンケート調査では、回答者の 86%が、企業価値評価における ESG（環境、社会、コーポレートガバナンス）要因の重要性を認識していた。短期（1年未満）的に企業を評価する人よりも、長期（3年以上）的に企業を評価する人の方が、ESG 要因を重要視している傾向が見られた。
- ✓ ESG に関連した用語について、回答者の 99%が CSR（企業の社会的責任）を、88%が SRI（社会的責任投資）を認識していたものの、他の用語は認知度が総じて低かった。ただし、PRI（国連責任投資原則）や UNEP-FI（国連環境計画・金融イニシアティブ）を認知している回答者は、他の用語の認知度も高い傾向が見られた。
- ✓ 財務指標や株価から見たパフォーマンスと ESG 要因の相関性についても、我が国の企業を対象に統計的な分析を行った。対象期間が最長3年と短いなどの問題はあるが、ESG に積極的な企業は、そうでない企業に比べて収益性や生産性が低いという結果が得られた。これは、ESG に積極的な企業は様々な経営資源を ESG に対して投資する一方、そうでない企業は ESG 以外へ経営資源を投資できるためと考えられる。
- ✓ そもそも企業の ESG への投資は、短期的な利益追求から生じる外部効果の是正という、長期的なステークホルダーの要請から生まれたと考えられる。よって、ESG への投資コストは短期的に利益を圧迫し、長期的に実を結ぶものである。アンケート回答者の 69%は、ESG 要因と企業価値の関連性を明確にすることが、企業価値評価に用いるための課題に挙げている。両者の因果関係についての分析をさらに深めることが必要であろう。

【添付資料】報告書「企業価値分析における ESG 要因」

本件に関するお問い合わせは下記まで

(社)日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞